

令和3年度

さいたま市立岩槻中学校だより

12月号(令和3年12月1日発行)



# 槻の若木

〒339-0054 岩槻区仲町1-14-35

電話：048-756-0254

FAX：048-758-7483

HP：<http://iwatsuki-j.saitama-city.ed.jp>

Mall：[iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp](mailto:iwatsuki-j@saitama-city.ed.jp)

## 日本の美しい言葉や習わし

校長 松戸 政世史

師走の候、令和3年も最後の月となりました。2学期の始業式では、言葉には力があるので、「笑顔、明るい笑顔」の合言葉や心持ちで学校生活を送りましょうと呼びかけました。そして、コロナ禍、若木祭や合唱祭、体育祭など、一つひとつの行事が例年以上に盛り上がり、生徒一人ひとりが輝き、成長した1年であったと思います。保護者・地域の皆様には、御理解・御協力をいただき、感謝申し上げますとともに、今後とも、温かい御支援をよろしくお願いいたします。

先日、3年生の進路保護者会で、漢字の問題を出しました。コロナ感染症拡大防止の一つである「うがい」という漢字はどのように書きますか。ヒントは、夏目漱石氏の「漱」は「すすぐ」という意味ですが、「口をすすぐ」ということで、「シ(さんずい)」を「口(くちへん)」に換えると、正解は、「嗽(うがい)」となります。日本語は、言葉の意味を考えていくと、面白いですね(「面：目の前」が「白い：明るくてはっきりとしている」→目の前にある景色の美しさを表すことから転じて、「楽しい」や「心地よい」という明るい感情を表す)。また、コロナ感染症拡大を「自分事」として捉えて、取り組みましょうと防止の協力が呼びかけられました。これは、「他人事(たにんごと)」の反対の意味として、「自分事(じぶんごと)」となっていたのですが、「他人事」を何と読みますか。正解は、「ひとごと」です。「自分事(じぶんごと)」は、「他人事」の読み方を「たにんごと」と間違えて、生まれてきたのでしょうか。本来、「他人」の対義語は、「私」や「我」ですから、「他人事(ひとごと)」の対義語は、「私事(わたくしごと)」や「我が事(わがごと)」が正解となります。最近では、「自分(じぶん)」という人が増えたようですが、「私(わたし)(わたくし)」という響きに、日本語の美しさを感じます。

さらに、年末年始を迎えるにあたり、日本の習わしに触れてみます。大晦日(おおみそか)は、12月31日を指します。「晦日(みそか)」の「晦」は月の満ち欠けが変化する様子の一つである「月が隠れること」を表わし、「つごもり(月隠り：つきごもりが転じたもの)」とも呼ばれ、旧暦で、新月を1日、月が隠れる「晦」の頃を30日と決め、その晦日の中でも、12月には「大」をつけて「大晦日(おおみそか)」と呼んでいます。その歴史は古く、遡ること平安時代、正月を迎え入れる歳神様(としがみさま)をまつる準備の日でした。大晦日までに、「掃き納め」(掃除を終わらせる)をし、元旦に掃除は行いません。何故なら、元旦にせっかく招いた歳神様を吐き出してしまうからです。大晦日には、伝統行事(「年越しそば」は、「つごもりそば」とも呼ばれ、細く長く、長寿や健康を願って食べます。「年の湯」は、1年の垢を落とします。「除夜の鐘」は、人の煩惱を取り去り、清らかな心で新年を迎えられるように、108回鳴らします。)も多く、身と心を清め、新年を迎えたいものです。お正月にお餅を食べるのは、平安時代に健康と長寿を祈願して行われた「歯固之儀(はがためのおぎ)」に由来し、長く延びて切れない様から、長寿に繋がります。2つの丸いお餅を重ねた「鏡餅」は、「歳神様」が宿るものとして床の間などに供え、歳神様と新年を祝う習わしがあります。

最後に、3年生は、これまでの自分の努力を信じ、その努力を確かな力とするために、冬休みにしっかりとまとめをしてください。また、1・2年生は、この一年を振り返り、令和4年4月に向けて、花を咲かせるために、力(学力や体力)を蓄えてください(「努力は、人生において裏切らない」)。3学期、皆さんが**明るい笑顔**で登校することを願っています。